発刊にあたって

２０２２年を迎え、新たな気持ちで営農に励んでいることと思います。
昨年は、春先の天候も良く、良質な１番牧草を確保することができました。７月以降は少雨、干ばつとなり、粗飼料の確保を心配しましたが、飼料用とうもろこしも含め、品質の高い良質な粗飼料を不足なく確保することができました。

そのような中、足掛け３年目となる新型コロナウイルス感染症による経済の低迷が続き、乳製品の需給緩和という厳しい問題に直面しているところです。
ウィズコロナの現状では、この先、これまで築いた地域の酪農生産基盤を損なうことの無いよう、需給動向を注視しつつ、生産効率を上げてこの難局を乗り切り、アフターコロナを迎えることが求められています。

本年の営農改善資料では、農家人口の減少する中、経営体当たりの規模の拡大や労働力不足の補完はもとより、省力的・効率的・高品質な農畜産物の安定生産につながることが期待される、スマート農業技術の導入の参考となるよう、地域の先駆的な活用事例を紹介することとしました。
搾乳ロボットなどの導入費用が高額なものに加え、デジタル化されたデータの活用や低コストで導入可能な繁殖監視機器なども含め、スマート農業の実践事例をご覧いただき、根室地域の優位性を活かした良質粗飼料の確保や効率的な飼養管理の改善など、我が家で導入する際の検討材料として、経営改善に役立てていただけたら幸いです。

道内の各農業改良普及センターでは、昨年８月「スマート農業相談窓口」を開設しました。
スマート農業技術は、産地・経営体の抱える課題や経営戦略に応じて適切な技術の選択が重要であることから、相談窓口では、皆様方がスマート農業を導入し、経営改善の一助となるよう、情報発信、個別の相談に応じるとともに、関係機関と連携し、地域一体となりスマート農業技術の普及に取り組むこととしております。
全道の普及センターと情報共有し、対応しますので、普及センターに気軽に相談していただければと思います。

結びとなりますが、営農改善資料作成に当たり、情報提供、ご協力を頂きました農業者の皆様、関係者の皆様に、心から感謝申し上げ、発刊にあたってのあいさつと致します。

根室農業改良普及センター
所長　堀内　正洋